

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 3 月 21 日作成)

小委員会名	居住性能評価指針改定刊行小委員会	主 査 名：横山 裕 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：羽山広文 主 査 名：村上公哉
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・ 建築物の振動に関する居住性能評価指針改定案の策定 ・	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	横山 裕(東京工業大学), 松本泰尚(埼玉大学), 安藤 啓(安藤環境コンサルタント), 石川孝重(日本女子大学), 井上勝夫(日本大学), 国松 直(産業技術総合研究所), 志村正幸(建設環境研究所), 鈴木雅靖(鹿島建設), 野口憲一(近代建築保存技術研究室), 濱本卓司(東京都市大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	性能評価法検討 WG： 「建築物の振動に関する居住性能評価指針同解説」の改定案策定のための作業	
2016 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee6_guideline/AIJ_EVSC6index.html

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 35 回環境振動シンポジウム「性能マトリクスを用いた環境振動設計」 (資料名) 同上 参加者数 83 名
大会研究集会	1. PD「建築物の振動に関する居住性能評価指針」の改定にむけて 資料名：同上 参加者数 82 名
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	前年度までの検討結果に基づいて、居住性能評価指針改定(案)を具体的に提案した
委員会活動の問題点 ・ 課題	特になし

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>当初の目標通り、居住性能評価指針の改定方針をほぼ固め、2016 年度大会にて PD を開催し、具体的な改定案を提案するとともに一般会員と意見交換を行った。また、PD の結果をふまえ、改定案に対するより確かな理解が得られるよう、2016 年度環境振動シンポジウムにて改定案を活用した設計法を例示した。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。